



地方独立行政法人青森県産業技術センター

あおもりの未来、技術でサポート

畜産研究所ニュース

第10号
2018.5.22

【新年度に当たって】

平成30年度の始めに当たり一言ご挨拶申し上げます。

今冬の高病原性鳥インフルエンザ発生は西日本での1例のみで、平穩に推移したことは幸いでありました。しかし、3月末に韓国で13か月ぶりに口蹄疫が発生するなど、依然悪性伝染病の侵入リスクは高く、本県の宝である種畜や種鶏※を管理する当所にあっても、日々緊張感をもって防疫対策に努めているところです。

一方、日欧EPAやTPP11といった外部環境は厳しさを増しておりますが、当所としては、青森産技のキャッチフレーズ「あおもりの未来、技術でサポート」を旗印に、引き続き、新技術の開発等を通じ、外圧に負けない足腰の強い畜産経営を支援して参ります。

こうした中、昨年度の成果として新たな県基幹種雄牛「春待白清」を作出することができました。本牛は、岐阜県の名牛「白清85の3」を父とする兵庫系種雄牛で、「第1花園」との相性も良好です。また体型的にも胸の厚みに富むなど、後継雌牛の改良にも貢献できるとみています。ぜひ積極的な活用をお願いいたします。

本年度の体制は、各部長が全て入れ替わるなど、かなりの異動となりました。しかし、若手研究員の研究力は年々アップしております。生産者の方々の所得向上に直結する新技術を多数開発できるよう職員一同がんばりますので、よろしくお願いいたします。

畜産研究所長 石山 治

※種畜：県基幹種雄牛等 種鶏：青森シャモロック及びあすなろ卵を生産するあすなろ卵鶏の種鶏

平成30年度の目玉研究

当所では一般県民の方にもわかりやすく、成果が期待できる課題を「目玉研究」とし、特に力を入れ進めています。現在は平成26年度からスタートした「バイテク技術による一卵性雄双子の生産」と「双子検定による種雄牛開発期間の短縮」が目玉で、これまでの4年間着実に成果がみえています。



1例目 (優青、優蒼)



2例目 (真栄、真二)

＜一卵性双子は3組の生産に成功＞

- 1例目 H28.2月生 オス双子
- 2例目 H29.6月 オス双子
- 3例目 H29.8月 メス双子

現在1例目で、1頭を種雄候補牛、もう1頭を肥育牛とする「双子検定」を実施中

～双子検定の状況～

1例目の双子のうち、優青は種雄候補牛として和牛改良技術部で待機中。優蒼は本所で肥育中です。(本双子の血統：父「優福栄」母の父「安福久」)

優蒼の肥育結果は本年8月頃判明します。

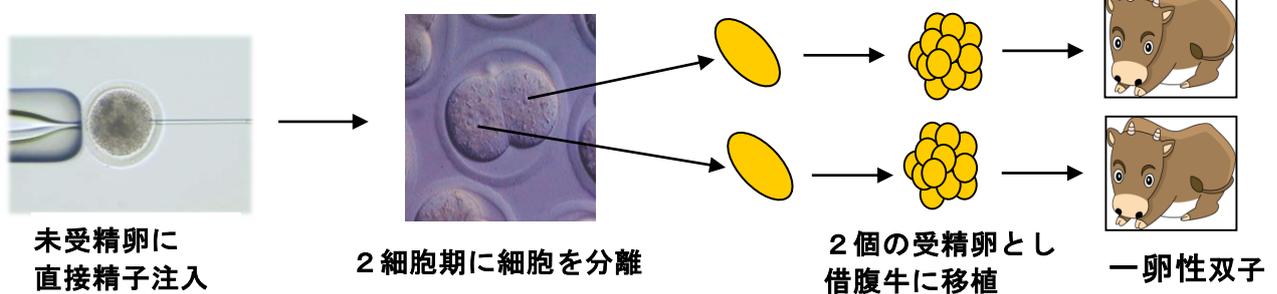
優蒼の肥育成績が良好なら、待機中の優青の凍結精液製造を開始

双子検定法が確立できれば、種雄牛の開発期間をこれまでの約半分に短縮可能となります。

(現在の種雄牛検定期間6.0年→双子検定3.5年)

～30年度の計画～

これまで開発した技術をさらに極め、精子を直接卵子に注入して受精卵を作成する「顕微授精技術」を組み入れた「より高度な双子生産技術」の開発に取り組みます。



職員異動のお知らせ

- 研究管理監 白戸 明 (和牛改良技術部長から)
- 本所庶務担当
主 事 福土 龍太郎 (西北地域県民局から) 主 事 高橋 由衣 (交通政策課から)
- 繁殖技術肉牛部
部 長 川畑 正寿 (酪農飼料環境部研究管理員から)
研究管理員 岡本 清虎 (西北地域県民局つがる家保から)
- 中小家畜・シャモロック部
部 長 植田 祐介 (酪農飼料環境部長から)
技能技師 藤谷 智史 (新採用)
- 酪農飼料環境部
部 長 佐藤 義人 (酪農飼料環境部研究管理員から)
研 究 員 立崎 泰正 (畜産課から)
研 究 員 木村 中 (新採用)
- 和牛改良技術部
部 長 平泉 真吾 (繁殖技術肉牛部長から)
主 査 吉田 昌代 (財務指導課五所川原審査指導グループから)

新任研究職員の紹介

～岡本 清虎 研究管理員～（繁殖技術肉牛部）



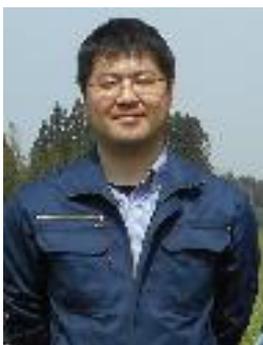
今年度、つがる家畜保健衛生所から畜産研究所繁殖技術肉牛部に配属になりました岡本です。主に牛の受精卵移植や診療等を担当することになりましたが、これまで経験したことがない業務で戸惑う毎日です。しかしながら、移植後に受胎を確認した時、治療した牛が完治した時は、これまで経験したことがないやりがいを感じます。また、当研究所には鶏（シャモロック）も飼養されているため、高病原性鳥インフルエンザ対策についても、これまでの家畜保健衛生所での経験を活かして取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

～立崎 泰正 研究員～（酪農飼料環境部）



酪農飼料環境部で乳牛を担当させていただくこととなりました立崎です。試験牛の取扱いも含めて、初めての研究業務となりますが、1日も早く業務に慣れて、農家の方々のお役に立てるよう頑張ります。1歳長女の育児にも奮闘中です。

新採用研究員の紹介（酪農飼料環境部）



本年度新採用となった「木村中（きむら あたる）」研究員を紹介します。

独法化で畜産研究所となって以来、初めての酪農飼料環境部の新人です。目下、日々牧草地に出動してベテラン女性陣の指導を受け、前向きに仕事に取り組んでいます。

今後の活躍をご期待ください。



<自己紹介>

酪農飼料環境部に配属となりました。飼料作物の優良な品種を選定して畜産農家経営の一助となればと考えております。まずは一日でも早く日々の業務に慣れて、仕事の幅を広げられるよう精進していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



春待白清

春待白清 (はるまちしらきよ)
 登録番号: 黒14989 (81.7)
 生年月日: 平成24年11月27日
 産地: 青森県十和田市
 繁殖者: 奥瀬牧野組合

白清85の3 (飛騨白清 (安福(岐阜)
 やす19の3 (安福(岐阜)
 はるか (安平 (安福(宮崎)
 (かねこ5 (平茂勝

青森県の種雄牛



第1花国

だい1はなくに
 (北星7の8×
 花桜×赤光)



第2花国

だい2はなくに
 (第1花国×
 北風7の8×花桜)



平安平

平安平 (ひらやすひら)

登録番号: 黒原5383 (82.9)
 生年月日: 平成21年5月22日
 産地: 青森県三戸郡三戸町
 繁殖者: 大平美智夫

安平 (安福(宮崎) (田安土井
 きよふく (安福(岐阜)
 ふくしげかつ (平茂勝 (第20平茂
 やすふくとみ (安福165の9

最新の「青森県の種雄牛」ポスターができました。
 県基幹種雄牛の活用で「あおもりと和牛」の産地づくりを目指しましょう。

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 畜産研究所

〒039-3156
 上北郡野辺地町字枇杷野51
 TEL 0175-64-2231
 FAX 0175-64-2230

(和牛改良技術部)
 〒038-2816
 つがる市森田町森田月見野558
 TEL 0173-26-3153
 FAX 0173-26-3205

HP <http://www.aomori-itc.or.jp>

Youtube 公式チャンネル <http://www.youtube.com/user/aitcofficial>

畜産の技術について何かありましたらお気軽にご相談して下さい。